

第2回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

平成27年8月4日（火） 午後1時30分～午後3時05分

2 会場

花巻市役所本庁舎3階 302～304会議室

3 出席者

花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員14名：中村良則座長、齋藤俊明委員、
佐々木一夫委員、似内英悦委員、小原宏委員、岩淵満智子委員、宮澤啓祐委員、
藤沼弘文委員、小原和雄委員（代理出席）、佐々木安浩委員、
漆沢俊明委員（代理出席）、谷藤和彦委員、村上弘明委員、菊池文彦委員

市側：八重樫総合政策部長

事務局：秘書政策課企画調整係（伊藤課長、似内課長補佐、寺林企画調整係長
ほか）

4 会議内容

【1 開会】

【2 挨拶】

○中村座長より挨拶。

【3 説明・意見交換】

○説明

（寺林係長） 始めに配布資料により、（仮称）花巻市人口ビジョン（素案）について説明。

○意見交換

（藤沼弘文委員） （仮称）花巻市人口ビジョン（素案）を拝見したが、非常に良いデータである。このデータの中に人口増加の鍵が隠れていると考える。P38のアンケート結果にある、人口問題に対応するために必要な取り組みの回答上位5位の取り組みそのものである。この取り組みを推進することで若い人たちが集まってくると考える。

（八重樫総合政策部長） 正に委員のご意見のとおりであると思っている。そういった取り組みについてこの後説明する（仮称）花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）の中でご意見をいただき、ご審議をお願いしたいと思う。そのためのアンケートの活用である。

(藤沼弘文委員) P40のアンケート結果にあるが、現在の居住地に満足している人がかなりいる。花巻市に満足している人は多いのであるから、これはやはり正規職員として就職するように雇用の環境を安定させて、そうすることに加えて子育て環境も良くしていけば、子どもは増えると思う。

(齋藤俊明委員) お願いとして、情報をもう少しいただきたい。P25の産業大分類・男女別就業者数について、平成22年国勢調査のデータとなっているが、これより以前のデータの記載もほしい。そうでないと例えば農業、林業の就業者数や製造業の就業者数が増えているであるとか減っているであるといったその推移がわからない。企業誘致数の増に伴ってその就業者数も増えているのかとは考えるが、必ずしもそうではない場合も有り得るので、古いデータとなってしまうため説得力がないのかも知れないがそういったデータもあるのかと思われるので示してほしい。

次にP26の産業大分類別就業者数及び特化係数のデータにある特化係数についても、特に農業は全国より高い割合であり特化していると言えるとなっているが、これも同様に推移のデータがあればもう少しわかりやすいと思う。

もうひとつ、P45の将来人口の展望の中にある人口置換水準が2.07であることは、国のスキームがそうになっており、これに合わせたビジョンとなっているかと思うが、この数値で大丈夫なのかという疑問がある。生産力を考えた場合、2.07という数値ではダメである。これが3や4という数値であれば生産力もどんどん上がってくるが、2.07であると生産力がギリギリあるいはマイナスとなると懸念される。人口ビジョンとは違う話ではあるが、生産力の増減についても推計ができれば何か手立てが見えてくるのではないかと考える。

(八重樫総合政策部長) ご指摘の1点目、2点目については、平成22年国勢調査のデータとなっている。平成17年、平成12年のデータについても入手可能なデータであると思われるため確認をする。また、本年が国勢調査の年となっているが、そのデータについては年明け、正式なデータの公表については更に時間がかかるかと思われるので、ご指摘のとおり遡っての推移を見る必要があるかと思われるのでご意見として承りたい。

(佐々木一夫委員) 先ほど意見が出されたP40のアンケート結果の満足度であるが、P19の旧4市町別の転出入状況にある市内純異動の状況から、大迫では異動により人口が減っている事実がある。ということは、満足度については必ずしも地域の実態をとらえていないのではないかと。例えば、大迫には入院できる医療機関がない。総合診療所のみで専門医がないため石鳥谷町の保健センターまでバスで移動している状況。また、ほとんどの人は盛岡市の医大や日赤病院を利用している。そういう実態の中で生活しているわけで、P40のアンケート結果下段にある満足していない理由の上位は全て大迫地域であったり、東和地域の一部にあてはまるものである。この状況において国の政策をそのまま花

巻市が行うものであると言わざるを得ないのではないかとすることに留意して、今後にそういう視点を見逃さないで国の中長期展望にある東京一極集中の是正、これの花巻地域一極集中の是正についても考えながら議論していただきたい。

(八重樫総合政策部長) 市全体としての数値は今日お示ししたとおりである。市民アンケートはアンケートをお願いした方のお住まいの地域も回答いただいているので、地域ごとにどう考えているのかは分析が可能。ご提案のとおりワーキンググループにおいても分析させていただきたい。

(宮澤啓祐委員) 今のご意見はP19にあるが、合併前からの傾向であり、旧3町の人口が減って花巻市が増えている。今は合併してトータルとして減っているが、特に大迫町については人口が減っているので問題視して対策を考えるべき。

(中村良則座長) このことについては、総合戦略の方でも人口が大きく減少している地域があるということに対しての施策など言及があって然るべきであると考えている。

(齋藤俊明委員) 実際に大迫地域に住んでいて仕事で移動している人もいるわけで、なかなか細かいところまでは見えてこない。例えば大迫やほかの地域に住んでいて仕事で花巻や市外に通っているなどそのあたりの詳しい情報があれば説明もついてくると思うのでよろしくお願ひしたい。

(藤沼弘文委員) もう少し的を絞っていただけないか。花巻市をどうするのかということであり、地域ではない。その次に地域がくることである。なので、花巻市の人口減少をどう食い止めるかについて区切っていただかないと前に進まないと思う。

(中村良則座長) みなさんが仰るのは、花巻市の中にも格差があるけれども、花巻市から県外、市外に出ていくというコースがある。その少なくない部分で大迫であったり東和であったりしており、この問題をどうするのかということも花巻市の人口減少を食い止める1つの観点であるということである。もう一度整理させていただくと、藤沼委員のお話のとおり議論のポイントは花巻市の人口ビジョンと総合戦略の策定である。ただ、花巻市の人口の移動の実際には地域格差を含んでいるということがあり、人口の減少対策や定住を進めていくためには、地域が抱える問題を解決していくこともしなければ総合戦略を策定することのポイントを外してしまうことにもなってしまふ。そのあたりの細かい点についても議論していただきたい。

○説明

(寺林係長) 次に、配布資料により、(仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について説明。

○意見交換

(齋藤俊明委員) 総合戦略の見せ方・作り方について、P1とP5であるが、まずはP1を見た時に、体系があって基本目標の①があってその下に重点方針の①から④があって、

その下に①②とあって構成されている。次にP 5のところに基本目標の①がありこれは良い。だが、その次に片カッコが付いていて基本的方向がある。そして次のP 6に片カッコの2があり、施策の方向となっている。その次に今度は両カッコの1があり、力強いものづくり産業の振興とある。ここで私が疑問なのは、重点方針の①から④までと、両カッコの1、2～4が実は対応しており、重点方針なのか施策の方向なのか良くわからない。片方で重点方針と言っておいて片方で何もつけないで、更には施策の方向性というものがある作りとなっているので、このあたりをもう少し対応関係をはっきりさせた方が良いのかなと思う。施策の方針と方向性が一緒なのか違うのかなど紛らわしくて何を言っているのかとを感じる。そこの基本的なところがわからないということと、次に当日配布資料のA 4サイズ横の資料のP 5政策パッケージのところでは、1-1 や 1-2 という作りになっている。見ればわかることであるが、見せ方として全体の作りがどういう風に整合しているのかきちんと整理されないとどのような体系になっているのか疑問に思われるので、中身よりも先ずはそういった部分。

(寺林係長) 仰るとおり紛らわしいので、ここは見せ方を工夫して見やすいようにしたいと思う。

(齋藤俊明委員) あとは、方針と方向性が一緒であるのか、違う意味合いだろうかとは思いますが紛らわしい。

(藤沼弘文委員) 私も技術振興協会の理事長をやっているが、そこで新しい人の育成を考えた際、なかなか育たない。私も自分で仕事を始めて40数年経つがいろいろなことがあった。だけれども今のものづくりは何か始めるとなるとお金は貸してくれるし、市の協力もあるし、支援センターもある。理事長をやりながらも疑問に感じているが、これでは手厚すぎて人材が育たないのではないか。

(藤沼弘文委員) 総合戦略の中でいろいろな策を書いているが、簡単な話、一番は企業誘致であると考えている。これはせつかく誘致した企業が撤退しないようにすることがひとつ、それと新たに企業を誘致することもひとつ、そして新たに起業をする人がいることもひとつ。せつかくこうして委員が集まっているのだからそういう議論をしていただきたい。花巻市をどうしたらいいのかということをもみんなで真剣になって考えなければならない。

(岩渕満智子委員) P 5の基本的方向の中に、本市では新規高卒者の地元就職希望者が多く、地元就職率も80%前後と高い数値で推移しているものの、早期離職者が多い傾向にあると書かれている。私は単純になぜ離職者が多いのだろうと疑問に感じるが、担当者の人たちはそのところを知ってらっしゃるのかと思う。安心して働ける職場が花巻市にあれば離職者というのもそんなに考えられないのではと思うし、これが人口減少にも繋がっていくのではないか。

(似内英悦委員) 外国人が日本に来て爆買いをしているという話題があるが、外国人観光客に関することは総合戦略の中に記載されているのか。あるいは、国や県の戦略ではどうという考え方で進めているものなのか。

(八重樫総合政策部長) これは地方版総合戦略として地方が策定するものであるが、国においては既に国の総合戦略が策定されている。国では観光立国日本として外国人をターゲットにどんどん日本に来ていただく、あるいは産業関係、貿易関係もあるわけだが、そういった取り組みをしていくということが国の方での考え方である。その中で花巻市としてもグリーンの色で示した基本目標①のところ、P5の中にもあるが新たな観光コンテンツの創出などそういったところでも外国人をターゲットにした事業についてもワーキングの方で掘り起こしをしている状況である。やはり交流人口というところで外国の方に来ていただいてお金を落としていただき地域産業に資するような展開をしていきたいという考え方である。

(似内英悦委員) 人口が少なくなる中で日本人同士で取り合いをしても仕方がない。北上市から人を集めて花巻市の人口を増やしてもこれは北上市に申し訳ない。爆買いだけでなく労働力としての期待はしていないのか。

(八重樫総合政策部長) 私たちが今考えている中では、外国の方にここに来ていただくのはあくまでも交流というかたちでそれを定住してもらおうという想定はしていない。似内委員が仰っている労働力としての考え方もこの総合戦略の中には掲載していない。また、隣の北上市から人に来てもらうということはこの総合戦略の中では成り立たないもの。あくまでも東京、首都圏から一極集中しないように東京の人たちに来てもらう、ここにいる人たちが東京に行かないようにするという戦略を練らなければならないことになっているものである。

(佐々木安浩委員) 委員それぞれの立場から意見を述べてそれを参考にさせていただくものだと思うのでその観点から話したい。人口の減少をいかに抑えるか、一番は仕事だと思う。雇用が大事。しかもただ雇用するのではなくて正規雇用かつ所得の高い雇用の実現が一番の対策だと考えている。自分が学校を出て就職先あるいはどこで暮らそうかと考える際に、やはり仕事である。そこでいくら稼ぐのか、それが将来的に安定するものなのか、そういったことを一番最初に考えるのではないか。その次に生活環境。公共交通であったり医療、教育など。そういう生きていくうえでの環境が出てきて、それでトータルで私はどこに就職しよう、どの企業に就職しようというような選択肢が出てくるのだと思う。それで、その企業が花巻市にあれば良いわけである。市内にそういう企業をたくさんつくるべきであり、それが人口減少対策に繋がるので、その実現に向けた具体策を立てるべきである。それでどうするべきであるかという、ひとつは先ほどの企業誘致。そしてもうひとつが地場産業、ものづくり。力強いものづくり産業である。既にある企業、100人単位で雇用している企業により強くなっていただく。その業界の中で強くなっていただき、

より多くの所得を従業員に払える力を持っていただく、これを行政あるいは我々金融機関を含めて支援していくという方向性が必要なのではないかと思います。そうでないと自分の給料では結婚しようとか、結婚しても子どもがやっぱり1人かなとなってしまう。要は、高い所得を払える企業を育てることが大事である。

(小原宏委員) 今日は何を決める会議であるのか。そこがわからない。数値目標があるが、例えば農業なら農業の人が、工業なら工業の人たちが集まって決めていけば良いのではないか。何をどうすれば良いのか、抜けているところがあれば教えてくれということであればまだわかるが、そこがはっきりしないと、みんなバラバラな話をして前に進まないのではないかと思います。

(中村良則座長) 私の思うところ、懇談会として、花巻市はこの人口ビジョンと総合戦略を策定しなければならない。この素案についてこれで良いのかどうか、足りない部分はないか、そういったことについて何かあれば教えてください、そういうことだと思う。決めるということではない、いろいろな意見を出していきましょうというものであると思う。

(小原宏委員) そうであれば、具体的な話をしてくださいということか。

(中村良則座長) ひとりの委員として私の意見を述べたい。ポイントは、仕事を作ること、これは間違いない。企業誘致や今ある企業の強化など。一方で、パッケージとしていろいろなポイントを出しているが、重点がどこにおかれるべきかわからない。花巻市で製造業が活気を呈したのは2000年まで。地場の製造業を強化するということは間違いのない重要なポイント。また、一方で、地元の農業であるとか林業であるとか、地域資源を活用するかたちで産業支援をしていくことに重点を置かなければならないということのも大きな流れではないのかと思う。もうひとつは観光ということで交流人口を増やすことによって地域消費を確保して雇用も確保していく、この2つが重点になるべきはずであると考え。また、どれも不可欠なものであるがその順位付けが大事である。だが、この戦略には順位付けがない。どれも重要なことは誰もがわかっていることだけれども、それでは花巻市はどれを大事にして地方創生をしていくのかというものがはっきりとしていないからみなさんがモヤモヤしたものとなっているのではないかと思います。私自身は製造業の強化というものは絶対に外してはいけないことだと考えており、地場の企業の支援は行っていくべきである。ただ、強化させる場合にも、ものづくりであるのかインバウンドであるのか6次産業であるのか、このあたりをはっきりとさせなければいけない。

(藤沼弘文委員) 岩手県で見た場合、花巻市にしかできないことがある。何があるかという空港がある。せっかく花巻市に空港があるのに、それを活かそうとしていない。空港はただ飛行機に乗るだけではなくて、もっと活用策を考えるべきである。例えば農業で米を加工した物を作り空港を活かして輸出するなどこれを市で取り組んでほしいと思っている。そうすれば新しい産業が生まれるのではないか。この戦略は総花的でありこれはこ

れで良いと思う。企業誘致も企業が儲かると思わなければこない。企業が来てくれるようなそういった戦略の土台づくりをやっていただきたい。もうひとつは地場産業がもっと伸びるような環境づくりについてもお願いしたい。安定した職場があることで子どもも増えてくるのではないか。

(齋藤俊明委員) 仰るとおり総花的なものになりがちであるし、どこの自治体も似たようなものを作るのではないか。県から出てきたものも似たようなものである。ただ、総合戦略ということで総花的で良いかということと中村座長が仰るとおり、その中でも特に重点戦略があっても良いのではないかと考える。重点目標とはあるが、基本目標の中の重点目標であるので、作り方としては基本的な目標はあって総合的な目標、戦略もある、ただしその中で特に特化してやりたいという戦略が別に記載されていればもう少しメリハリの効いた総合戦略になるのではないかと感じた。

(宮澤啓祐委員) 職安の資料では花巻管内における高卒者の地元就職志向は県内で一番である。正規雇用の状況についても30%台であり県内で一番良い。北上管内では22%。だから高卒者の希望が叶えられるように地元で職場があれば良い。高卒者の意向調査を行ってみてはどうか。もうひとつ、社会減の大きな要因のひとつである進学時について、地元で大学があるのに富士大学は定員割れの状況である。よそから学生を呼びことと同様に地元高校生にもっと進学してもらえようような対策を考えるべきである。ほかに、離職率が高いとあるがデータはあるのか。あまりそのような話はきいたことがないのだが。特に大学の活用についてお願いしたい。

(小原宏委員) この総合戦略は良くできている。これが全部できれば本当に素晴らしい花巻市になると感じた。さらに、ワーキンググループでどれを優先にするといった順番をつければもっと素晴らしいものになるのではないか。

(中村良則座長) それではいろいろな意見が出されたので整理していきたいと思うが、人口減少の中で定着率を高めるためには、ひとつは地元就職、地元進学が増えると花巻市としての定着率は上がるということ。20歳前後の人の転出が多くてその人たちが帰ってこないとということが大きな問題である。大学進学者への対策がもう少しきめ細かくあると良い。もうひとつは、花巻市全体としての人口流出があるわけだが、大迫町と東和町の人口減少をいかに食い止めるかである。花巻市に事業所の進出があることが重要であるが、その中でも大迫町や東和町に事業所の進出があれば回復にもなると思う。この地域は農村地域でありかつ森林地域である。この森林を活用した産業を起こしていくこと、またこの森林や農村地帯の景観を生かして観光資源としてどう結び付けていくか、この農業と森林、観光、製造を一体的にした対策が考えられればと思う。

【4 閉会】

(伊藤課長) 本日もご提言いただいた重点を絞ってという部分について今後協議していきたい。また、今後地域に出ましてのこういった説明をしながら、計画に対してご提言を広く市民のみなさまからいただきたいと思っている。